

米国で巻き起こるカプセル型洗剤のフィルム論争

米国において、ポパール（PVA：ポリビニルアルコール）を使用した水溶性フィルムに関する議論が激化している。洗濯用などの洗剤カプセルに使われる水溶性 PVA フィルムに健康や環境安全性への影響が残る可能性があるとして、環境にやさしい製品を標榜する洗浄剤メーカーや環境保護団体が米環境保護庁（EPA）に対して規制を求める請願を行っており、現地メディアは敏感に反応している。

合成高分子でありながら水溶性である特性を活かして、ポパールは繊維や紙の加工、接着剤、化粧品や医薬品、食品添加物など幅広い用途で利用されている。EPA の Safer Chemicals Ingredients List（より安全な化学物質成分リスト）にも含まれており、安全性の高い物質であると広く認められている。また、生分解性にも優れていることが示唆されてきた。しかし、従来の排水処理施設ではポパールを分解するバクテリア等に一定時間暴露されるなどの分解条件が満たされておらず、多くのプラスチック粒子が環境へ放出されている可能性があるといった研究もある。一方で、そうした研究は米国の排水処理システムに流れ込む PVA の量を過大評価しているといった見方もある。

世界中でポパールの安全性や持続可能性は長年に渡る研究の中で証明されてきており、ポパール製造メーカーや業界団体は、こうした請願行動に対して反発する姿勢を見せている。米国ではカプセル洗剤が普及し、洗剤市場の競争環境も以前とは変わった中で、エシカルを志向する消費者に対するキャンペーンだという見方もできなくない。

いずれにしても EPA の判断が待たれるとともに、その判断が後に世界にどのような影響を与えるのかを注視していく必要がある。